

情報の収集・連絡

Q

災害時はどんな情報が必要となるのか

A

まずは地域の被害状況に関する情報が必要です。

要点

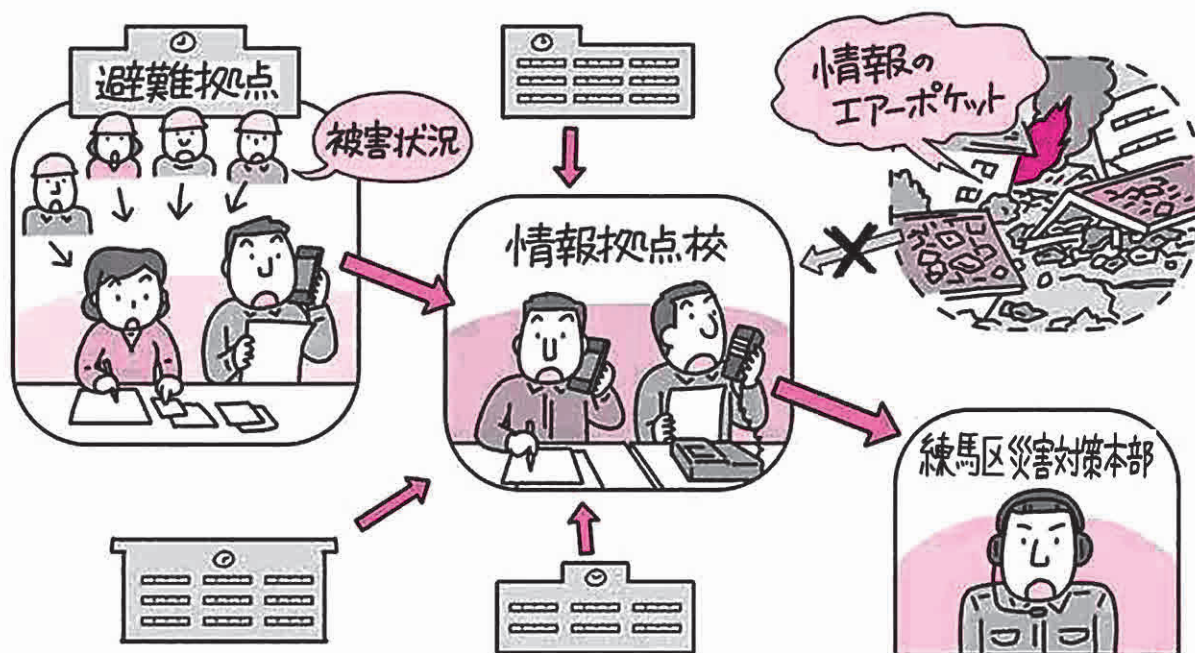
大地震発生直後に受け取る情報には、テレビ・ラジオ等による広域の被災情報と、区から防災無線等で発信する地域の被災情報があります。

被害が激しい地域の情報が外部に一番伝わらないという「情報のエアポケット」状態が生じることが知られています。これを防ぐために、集合した連絡会のメンバーや避難者からの情報を、情報拠点校を経由して、災害対策本部に伝えることが重要です。

<解説>

「情報のエアポケット」状態が生ずることで、最も支援が必要な地域に、支援が届かない状態がおきる恐れがあります。「練馬区災害対策本部」では避難者数のほか、要員の参集情報や地域の被害状況などを基に、支援の体制を組みます。正確な情報を迅速に「練馬区災害対策本部」に伝えることが何よりも重要です。

なお、情報連絡の手段としては、電話やインターネット環境を利用しますが、災害の影響により使用できない場合には、避難拠点に備えられた無線を使用します。



Q

情報の収集に使うものはなにか

A

地域の被害情報は目で見て集めます。

区からの情報などは、防災無線放送塔や戸別受信機、区のホームページ、ねりま情報メール、区公式SNS、テレビ・ラジオなどで収集します。

要点

災害発生直後は、避難拠点に参集する際に、目で見て得た地域の被害状況が重要な情報となります。



<解説>

広域の情報収集には、テレビ・ラジオを活用します。そのほか、防災無線放送塔、避難拠点にある防災無線の戸別受信機、区ホームページ、ねりま情報メール、区公式SNSなどにより、区が発信した情報を収集します。避難拠点と練馬区災害対策本部との間の通信は、無線機を使います。有線の電話が使えるときは、電話・FAXを使用します。



Q

集められた情報はどこに
連絡するのか

A

地域の情報は、情報拠点校を経由して、「練馬区災害対策本部」に伝達します。

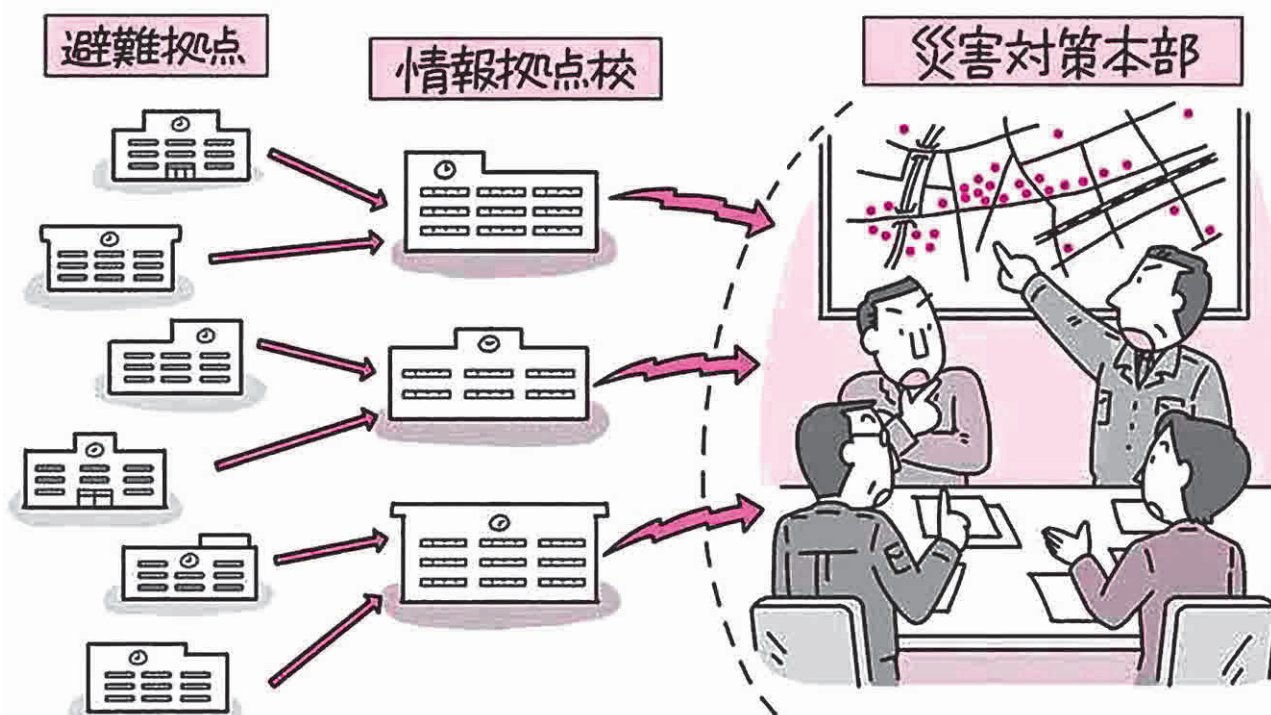
要点

「練馬区災害対策本部」では、高所カメラや各防災機関の派遣員等からの情報と情報拠点校がまとめた地域の情報を基に、対策を決定します。そのためにも、各地域からの正確な情報が必要です。

<解説>

各避難拠点の対策会議では、被害状況等が一目で分かるように、地図をはりだし、被害箇所を書き込むなど、状況が一覧できるようにします。また、大きなパネルなどで記録するとさらに見やすくなります。

災害発生直後の緊急対応が必要な時期には、一刻も速く被害の状況を知らせる必要があります。まず、概略を通知して、その後に順次整理した情報を知らせるような工夫が必要です。



Q

避難者に“正確に”情報を伝えるためにはどうするのか

A

必要な情報を、わかりやすく整理して、避難者に知らせます。

要点

避難者へのお知らせ等は、掲示板やビラを活用し、正確に伝えることが重要です。

緊急性の高い情報は、校内放送を使用し、放送後は、掲示等により、情報を受け取り損なう人が出ないように配慮します。



＜避難者へ知らせる情報＞

- ア 区の方策：被害状況、医療、物資配給、給水、道路状況 他
- イ 防災機関の方策：消火活動、救助活動、交通規制、医療活動、道路状況、ライフライン復旧状況 他



※被災者の安否情報について

DV避難している方など、安否情報の公開を希望しない方については、開示しません。

◆災害用ダイヤル「171」

被災地に住む親類、友人の安否をどうやって確認するか……。

大地震の際にはNTTが、災害用伝言ダイヤルを開設します。録音時のダイヤルは「171-1-（被災地市外局番）-（電話番号）」です。録音を再生する場合は、「171-2-（以下同じ）」です。家族・友人の安否が確認できれば、ひと安心。携帯各社も、災害用伝言板を開設しますのであらかじめ確認しておきましょう。